

yamabuki 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No.60
平成19年10月9日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

センセイコール(10)

13) 変換したら、おかしい漢字が出る、一部しか漢字にならない

通常これが出るのが、漢字、というよりむしろカタカナ言葉を作るときです。

カタカナにするのに、スペースキーや F7 キーを押したときに、思ったようにカタカナの言葉が表示されない、というのがこれです。

原因は、変換する時点で、言葉の一部に、未返還状態を示す点線の下線がないことによりま
す。ワードの環境(ワードアート含む)でこうなりやすいです。というのも、ATOK(スマイルワー
プロや一太郎など)では、未変換文字が青字で表示されるので、確定してしまってから(黒い字にな
おしたあとで)変換することがないからです。

具体的には、

カレーライス と作りたいのに、「かれーら椅子」あるいは「かれーらイス」となる
といった具合です。

変換キーを押す時点でパソコンに<見えて>いるのは、未返還のかなだけです。つまり、この
場合、「いす」の2文字だけです。それ以前の「かれーら」には、下線がなくひらがなに「確定」され
ているので、カタカナへの変換対象になりません。

子どもにこれを説明するときには、画面を見て、もし変換キーを押しただけで確定(Enter キー)していなければ、Backspaceキー(ATOKや、スマイルATOKの場合。MS-IMEの時は、Escキー)を押して未返還状態に戻して、パソコンにどの文字が見えていて変換対象にしているかを説明します。確定直後なら、Ctrl+Backspace で確定直前の状態に直せますので、ここから未返還状態に戻ります。

いずれの場合も、カタカナにしたい言葉の1文字目から入力し直す必要があります。

全部ひらがなに確定してしまってから「再変換」という手もないわけではありませんが、授業で子どもたちに説明する場合には適当ではありません。なぜなら、間違っただけで確定することは、日本語変換の学習機能に間違っただけを教えることになり、効率のよい日本語入力に逆行するからです。

Enter キーは、「いいよ」「OKだよ」という意思表示ですから、このキーを押していい場合をいつも意識して操作する習慣をつけたいものです。また、OKしたくない場合の操作も覚えておきたいです。ほとんどの場合はEscキーで解決できることも覚えておきましょう。

